

保護者の皆様・地域の皆様へ

6月も中旬を迎え、紫陽花が一層美しく感じられます。一昨日は、青少年育成北浦和地区会、PTAの皆様の御協力をいただき、恒例の「ふれあい花植え」を行いました。児童と保護者、地域の方の三者がふれあう貴重な機会です。昨年度は6月の実施を見合わせ、秋だけの実施となりましたが、今年度は、雨で延期したとはいえ、こうして予定通り実施できることをとてもうれしく思います。

正門を入ったところの花壇は、毎年「きたうらわ」という花文字になるように植え付けていますが、今年は遠目にも分かりやすいようにということで漢字を使い「北うらわ」としてみました。

植え付けで大切なことは、適度な深さの穴を掘って花の苗がしっかりと地面に根付くようにしてやることです。地面の上に苗を置いて上から土をかけただけでは根付かずに枯れてしまうことがありますし、深い穴を掘りすぎると葉や茎をダメにしてしまいます。

「苗の大きさをよく見て、上手に穴を掘ってね」

と子どもたちに声を掛けながら、これは教育活動と似ているなと思いました。

児童が学校という土壌に根を張り、日々の教育活動という栄養を吸収できるようになれば、自らの内にある力を発揮してどんどん成長していくことが出来ます。そのためには、根を張りやすい穴を掘ってやらなければなりません。この場合の「穴を掘る」とは、子どもに対しての声掛けです。

「学校は楽しい？」

「どんな勉強をしているの？」

「友だちは元気？」

このような声掛けで子どもの様子に関心を示し、共感したり励ましたりすることで、子どもは学校という地に根を張りやすくなります。あまり聞きすぎるのは、深すぎる穴になってしまうので注意が必要ですが、大切なのは、苗によって穴の深さが違うように、子どもによって適切な声掛けの量も違うということです。

花の成長を楽しみながら、子どもたちへの声掛けも一緒に続けてまいりましょう。



6月10日 校長 三村 悟